

通信技術と社会技術が融合した地域見守り

平成31年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】 採択課題

課題名： 「北いわてにおける生活支援型コミュニティづくり

—中山間地域の持続可能な生活を実現する新たな社会技術の確立—

研究代表者：社会福祉学部 教授 小川晃子※平成31年度 齋藤昭彦※令和2年度

課題提案者：岩手県政策地域部 地域振興室 県北沿岸振興課長 竹花光弘

研究メンバー 齋藤昭彦（社会福祉学部）※平成31年度

小川晃子（研究・地域連携本部）※令和2年度

技術キーワード：ICT活用見守り、生活支援型コミュニティづくり、社会技術

▼研究の概要（背景・目標）

本研究は、高齢化・過疎化が進展する北いわてにおいて、ICTを活用した見守り（お元気発信）を基盤として、コミュニティが持続的に活用するための社会技術を確立することを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）

研究者が地域の多様な関与者（マルチステークホルダー）とともに問題解決を図る手法であるアクションリサーチを実施した。

▼研究の成果（結論・考察）

1.岩泉町では、全戸に貸与されている電話型IP端末のアンケート機能を活用した「お元気発信」をつくり、安家地区（高齢化率57%）で安家支所にいる集落支援員が27名を見守る社会実験を実施した。

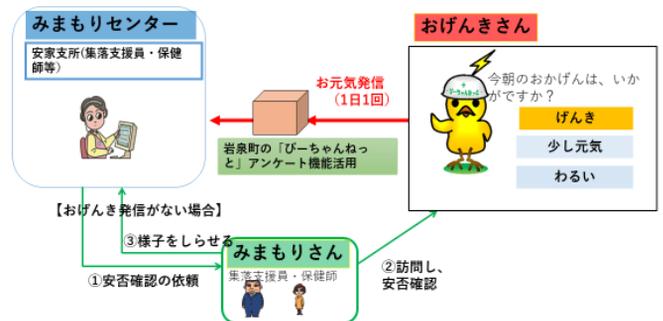
2.岩手町では豊岡地区（高齢化率69%）で、岩手県社協システムの「かけるだけお元気発信」を活用し、岩手県立大学の研究者と豊岡地区自治振興会長が連携をして20名を見守る社会実験を実施した。未発信者を訪問したところ、室内で倒れているところが発見され、救急搬送されることが22回起きた。別居親族6名にメールで安否を伝えることにより、町外コミュニティが形成された。

3. 能動的な安否発信により高齢者の自律が支援されるとともに、見守る側・見守られる側双方ともに安心感がもてる仕組みであると評価された。

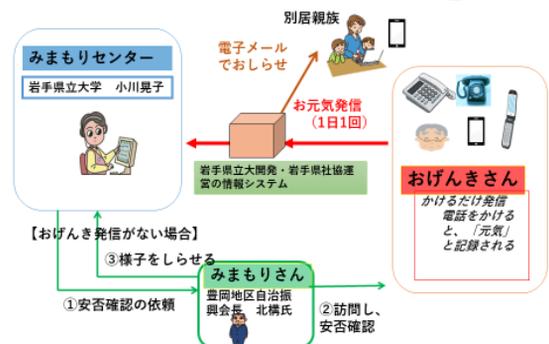
岩泉町ぴーちゃんねつとを活用したお元気発信



岩泉町安家地区での「お元気発信」社会実験



岩手町豊岡地区での「お元気発信」社会実験



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 岩泉町・岩手町ともに、社会実験の成果が評価されて令和3年度から全町対象の事業となった（実装）
2. 岩泉町においては、令和3年度から「AIスピーカーを活用した服薬支援見守り」の社会実験を新たに実施する
3. 岩泉町・岩手町以外の「北いわて」の市町村に対して横展開に向けた働きかけを行うことが、今後に残された課題である